

避難拠点運営連絡会交流会 議事録

【日 時】 3月23日（土）10:00～12:00

【場 所】 練馬区役所 地下二階多目的会議室

【参加者】 51名 / 34拠点

地区別の避難拠点の内訳

練馬地区 【中村小、早宮小、開進第一小、開進第四小、練馬第二小、練馬第三小、中村中、開進第一中、練馬東中、豊溪中】

石泉地区 【石神井西小、上石神井北小、下石神井小、光和小、立野小、関町小、大泉小、大泉第六小、大泉西小、泉新小、南田中小、南が丘小、上石神井中、南が丘中、大泉中、大泉西中】

光が丘地区 【光が丘四季の香小、光が丘春の風小、光が丘夏の雲小、光が丘秋の陽小、谷原小、練馬中、光が丘第四中、石神井東中】

避難拠点運営連絡会交流会では、グループごとに関心のあるテーマに沿って意見交換しました。各グループのテーマおよび意見交換内容については、下記のとおりです。

【1班】テーマ：避難拠点運営マニュアル作成について

① 意見内容

- ・ペットの収容場所、女性の洗濯物を干す場所も決めておく必要がある
- ・ペットに関するマニュアルを作成したいので、今後ペット同行避難の訓練がある場合は参加したいし、情報提供をして欲しい。

【2班】テーマ：マニュアル作成について

① 意見内容

- ・女性目線での避難拠点づくりを行い、マニュアルに反映させるべき。
- ・マニュアル作りを率先して取り組むリーダー的役割の人がいるとスムーズに作成できる。
- ・駅が近い学校などは帰宅困難者が流れてくるので、マニュアルに対応を書きしておくべき。
- ・マニュアルは毎年更新が必要なので、訓練後に必ず見直しをするべき。

【3班】テーマ：連絡会員を増やす方法

① 連絡会員の問題点について

- ・10年以上役員が変わっていない。会員が高齢化しており、災害時に実際に動ける人が少ないと思う。
- ・PTAが避難拠点活動に参加しているが、毎年参加するPTAが入れ替わる。平日の午前中に会議をしていることもあり、仕事をしている方が参加しづらいのではないかと。
- ・役員をやめるときには、後任を見つけてもらうようにしている。
- ・災害ボランティアが5名登録されているが、ほとんど参加していない。災害ボランティアの周知を強化してほしい。

- ・災害ボランティアは、災害や防災対策に関心があるが町会に加入していないなど、避難拠点活動へ参加する方法が分からない方のために、区が窓口になってもらっている制度である。町会に加入していないと避難拠点活動に参加しづらいとされているのではないかと。避難拠点としてもそういう方を受け入れる体制にしておかないといけない。

② 新会員の取り込み方法について

- ・若い方に避難拠点活動に参加してもらおうとしたら、PTA を取り込むのはどうか。
- ・PTA の役員に充て職で避難拠点活動に参加してもらっている。毎年役員が変わるので、1 人も残ってもらえない。1 人や 2 人でもいいので PTA 役員を降りた後でも避難拠点に残ってもらいたい。
- ・中学校を卒業した PTA の人脈を頼りにしたい。
- ・若い（仕事をしている）方が参加しやすい日程に活動する必要がある。

③ その他の意見

- ・毎月、活動している避難拠点はどのような活動を行っているのか。
⇒ 訓練準備や備蓄倉庫整理等を行っている。
- ・災害時、役員はビブス等を着用すると思うが、各家庭に置き、着用してから参集するか。備蓄倉庫に置き、参集してから着用するか。
⇒ 備蓄倉庫に置いておくのがいいのではないかと。

【4班】テーマ：トイレ対策について

① 各避難拠点でのトイレ問題に対する認識・現状について

- ・人数に対してトイレの数は少ないと思う。
- ・校舎のトイレが使用できない場合、700 人を仮設 3 台では捌けないのではないかと。過去の災害で想定より避難者が多かった場合もある。
- ・各家庭でのトイレ対策にも限界があると感じている。

② 各避難拠点でのトイレ確保の取り組み

- ・助成金で携帯トイレを購入している。
- ・避難拠点独自の収入源を確保し、トイレ対策を進めることも必要だと思う。
- ・校舎トイレが使用可か判断するのに、設備防災協力会の助言のもと、あらかじめ重点確認箇所をチェックしている。
- ・排泄物の消臭や除菌も考える必要がある。猫砂は安くて使える。おがくずも良い。
- ・施設を最大限活用し、現実にある設備・モノで対応する必要がある。

③ 要支援者や女性のトイレ問題、運用上の課題について

- ・並んだりしている場合に、必ずトラブルが起きる。人を仕分けたり、なだめたりする役割の人が必要ではないかと。
- ・各自が早め早めにトイレに行っておかないと間に合わない可能性もある。病気の人もいるだろうが、見た目でわからないこともある。
- ・避難拠点周辺の車いすの住民に避難拠点の実地体験をしてもらうことで交流ができた。

障害者の人は遠慮していると感じている。

- ・ケアサービスの訓練に参加してみて、地域全体で防災に取り組む必要性を感じた。避難拠点も地域と連携していきたい。
- ・避難拠点運営では、女性も含めた協議が必要だと感じている。
- ・長期的には、トイレも含めた防犯（夜警）の体制などが必要。

④ その他

- ・これまで3基の仮設トイレを中心に考えていたが、校舎内トイレもあるということがわかり少しほっとしている。
- ・区でも、トイレに関する諸対策の優先度を上げてほしい。

【5班】テーマ：ペット対策について

① ペット対策実施状況

- ・場所を検討中（資材倉庫はどうかとの意見あり）。
- ・場所（鉄棒、藤棚にブルーシートをかける）のみ決まっている。
- ・実際にペットの受け入れ訓練を実施した。避難拠点ではペットの受付の仕方、飼い主に確認書を渡すことなどが決まっている。

② ペット収容場所・受入れ方法について

- ・犬はジャングルジムの周りに繫げばよいのではないか。
- ・ペットをすぐ近くに収容したら（繫いだら）鳴くのではないか。
- ・自分も犬を飼っているが、雨風の防げないところではペットは死んでしまうと思う。
- ・学校ごとに施設の状況が違うので、避難拠点ごとにそれぞれ収容場所を検討する必要がある。
- ・過去の災害ではペットを連れた避難者の中には、テントや車内で生活する人もいたと聞いている。どうしても一緒と言うならばテント、車を受け入れてもいいかもしれないが、敷地が狭いので限りがある。
- ・ペット用の受付・受付票を作りたい。
- ・ペットの世話は飼い主にしてもらうこととし、それを了承してもらえなければ受け入れないということに決めたい。
- ・ペットに何かあっても避難拠点では責任が取れないと伝え、確認書を書いてもらってはどうか。
- ・飼い主によってもペットに対する考え方が違う（手元から放したくない人、優先順位が低い人）ので難しい。

③ ペット管理ボランティアについて

- ・自分の拠点にペットボランティアがいると後から知ることがあった。
- ・ペットボランティアの数が少ないとのことだが、登録者がいない拠点ではペットを飼っている運営連絡会員の意見を取り入れるようにすればいいのでは。
- ・避難拠点から地域の人に向けてペットボランティアの周知をしてはどうか。

【6班】テーマ：ペット対策について

① ペットの収容場所・受入れ方法について

- ・ペットの飼い主としては、ペットは家族の一員として考えられていることを念頭において、拠点運営を考えていかななくてはならない。
- ・犬・猫以外のあらゆる動物に対応していけるような運営も考えていきたい。
- ・学校の教室を一つ開放してもらい、ペットを収容できるといいが、衛生面で心配が残る。災害復興後には、生徒が授業をする場所にもなるので、学校の同意は間違いなくとらなくてはならないだろう。
- ・避難者でペットを連れてくる人たちで、ペット班を作成し、そのペット班全員がペットの面倒をみるようにするのがいいと思う。

② その他

- ・獣医を招いて、災害時に必要なことの講話をしてもらうのもいいと考える。
- ・ペット受入れ訓練を実施した。1年目、ペットの受入体制構築。ジャングルジム、雲梯を用いてペットを受け入れる場所を作った。本物のペット2頭を用いて訓練を行った。2年目、1年目の訓練に加えて、ペット対策のパンフレットなども配付した。3年目、ペット6頭を招き訓練を行った。そして、獣医を招いて災害時に必要な物、ペットのしつけなどの講習を行ってもらった。訓練お土産として、ペットクイズの回答者に試供品のペットフードを配付した。

【7班】テーマ：女性への配慮について

① マニュアルで整備している内容について

- ・授乳室、更衣室、物干し場、妊婦への対応場所は決められている
- ・单身女性用の部屋が決められている。(普段単身で生活している女性にとっては、男女混合の体育館のような場所はストレスが大きいのではないかという配慮から)。
- ・身分を隠してきた人(DV被害者など)への対応がまだ決められていない。受付しないわけにもいかないなので、何か決まっているところがあれば知りたい。
- ・身分を隠してきた人へは、自己申告があれば、偽名を使って受付票を記入してもらうように案内することとしている。

② 服装への配慮

- ・光が丘公園での訓練に参加し、担架で運ばれる役をやった。上から毛布を掛けてもらったが、すぐずれ落ちる。発災したときはいろいろな服装の人がいるため、スカートの女性へは、下着が見えないように配慮する必要があると思う。
- ・担架の搬送の際は毛布ごとベルトで留められるとよい。マジックテープのベルト等を担架と一緒に備蓄してはどうか。

③ 避難者生活での配慮

- ・女性は若い方だけではない。高齢者も避難所のなかでは孤独でうつ状態になりがち。どう声かけをしたらよいかは迷うところだが、積極的な声かけや、何か役割を与えてあげることで生きがいを見つけられるのではないか。
- ・どう声かけするかについては、言葉遣いや声色等も重要。
- ・避難所では女性用下着は特に需要が高い。過去の避難所では、女性でも支援物資の

中に男性用の下着しかなくて、男性用の下着を着ていたという話を聞いたことがある。下着の支援を充実させられるとよい。

- 下着については、サイズや種類などが多種多様過ぎて、避難拠点で対応するのは困難と思う。自分での対策を地道に呼びかけるしかない。

④ トイレの配慮

- トイレについては、女性は生理用品の処分等、男性に見られたくないという方も多い。男女それぞれ専用のトイレを作れるとよい。
- 組み立てトイレの数が少ないので専用トイレは難しそう。

⑤ その他

- 生理用品の話が出たが、生理用品を渡す人はやはり女性が良い。取りに来る側の気持ちを考えてもそうだが、どのくらい必要かとか、昼用、夜用とか女性でないかわからないこともある
- 避難拠点での声かけや生理用品のこともそうだが、運営側でも女性が多く必要。P T Aさんは女性が多いので積極的に拠点に絡んでもらい、手伝えることは手伝ってもらったらよい。(7班では避難拠点運営にP T Aも参加している避難拠点は7拠点中3拠点だった)
- P T Aが絡んでもらえれば心強い。また、拠点の運営はすべて自分たちでやるというものではないので、元気な避難者さんには全員、できることをやってもらうような呼びかけも必要。
- いろいろな意見が出ているが、女性への配慮等は拠点開設が落ち着いてきたら順次整備してゆけばよいと思う。東日本の時に拠点の開設をしたが、開設当初は避難者を捌くので精一杯で、そこまで気が回らない。避難スペースについては、はじめ全員エアコンのつく部屋を案内していたが、入りきらなくなり、後から体育館へ移動してもらった経験がある。配慮も優先順位が必要である。